

小野 達郎

私の父方の祖父は、福島県北会津郡（旧地名）神指の庄屋、小野傳吾の次男として明治二十三年五月七日に誕生しました。父の話では曾祖父の住居は百姓一揆にも襲われる事もなく柱一本にも傷ひとつも無かったそうです。傳吾は明治維新後は郡長を勤め会津工業高等学校の創立に関り次男だった祖父は卒業後は日本陶器（現ノリタケ）に入社し研究熱心だったため色々な新しい取り組みを試み優秀な社員として何度も表彰されました。在籍中にドイツからもたらされた最新の技法、石膏型製型を修得した後ヘッドライティングを受け数名で名古屋製陶（現鳴海製陶）へ移籍しさらに磨をかけました。その後郷里に戻って汽車土瓶の製造を始めました。汽車土瓶とは陶磁器製の土瓶で購入して持っているといくと日本全国どここの駅でも無料でお茶を注いでくれたそうです。その習わしは私の子供の頃も残っていて大きな葉缶を両手に下げた人が列車が到

く度（たび）に窓（まど）から差しこまれた土瓶（つばき）にお茶（ちや）を注（つ）いでいた事を覚えています。

第二次世界大戦中、祖父は佐賀県塩田町の青年学校に石膏型鋳込（きうこ）の技術指導に赴任（しゆにん）し同じ所（ところ）期（き）に京都（きょうと）から沢田（さわだ）米三（よしみ）がデザイン指導に来ていました。沢田は京都の神社、寺院の天井絵（てんけいえ）を陶磁器（たうしき）で創（つく）りたいと考えていたので、琉山（りゅうしや）窯（かま）に金襴手（きんらんて）の技法（きふぽう）を指導しました。金襴手の技法は現在でも琉山窯の大きな宝（たから）庫（くら）です。因（よ）みに塩田所（しちだんじよ）は熊本県天草（あまぐさ）から運（は）ね

てきた陶石（たうせき）の集積地（しゆしやくち）で、塩田川（しちだんがわ）の流水（りうすい）を利用して有田（あrita）した大きな水車（みづぐるま）で陶石（たうせき）を研ぎ、陶土（たうど）にして有田（あrita）波佐見（はさみ）の窯元（かまもと）へ運（は）んでいます。

祖父の一日（いちにち）の仕事（しごと）は主にノリタケ左衛門（さゑもん）に身（み）につけたパテッセルパテ日本語（にっぽんご）で埴白手（はしろて）という技法（きふぽう）で水仙（すいせん）や梅（うめ）の絵柄（えがら）の作品（さく品）を制作（せいぞう）していた。埴白手（はしろて）とは水の様に薄く溶いた泥漿（でいじやう）で絵柄（えがら）を何度も塗り重ねる技法（きふぽう）で大変（たいげん）勻向（ひとへ）が掛（か）かる作品（さく品）です。清楚（しよじよ）で香りまで漂（も）って気がする逸品（えっぴん）です。

この作品を大正十二年、商工展に出品し、金賞無しの銀賞を頂いています。大正十五年の文展でも賞を頂いています。公募展等の内情を知り以後公募展には出品を控えています。昭和三十一年には有田の商社の方がカルフォルニア博覧会に出品した（布目八角双魚文皿がデザイン）部門で金賞を頂き「アメリカが認めてくれた」と喜んでました。祖父は従業員に「白今独自の物を創りなさい。良い物を創るには良い物を見る事だ」と言っていたので展覧会や博覧会があると従業員も連れて出掛けていました。祖父の長女信子（のちの瑠子）が離婚して二人の子供を連れて帰って来て疎山寮で働いていた時、久留米の石橋美術館で開催されていた加賀土師蒔氏の釉裏金彩の作品を見て感激し是非挑戦したいと一念発起し制作方法も全く判らない中で美しくしものを創りたいという祈愿いの情熱で完成させました。この心意気は祖父信吾に相通じるその力があります。

こちらの四百字詰め原稿用紙を使って、応募いただくことも可能です。ぜひご利用ください。

郵送応募の際は指定の応募申込用紙を同封のうえ、ご投函ください。

私の母方の祖父は佐賀市水々江町片田江で和菓子を製造していきした。鼻鼈を産やしていたので片田江の鼻鼈頭と呼ばれ繁盛していたそうです。一男三女の子宝に恵まれています。したが末子の叔父が幼少の時に亡くなり祖母は商売も文房具の販売に改め四人の子供達を立派に育て上げました。母の実家にはお盆とお正月に私達一家で泊りに行っていました。就寝時になると叔父が芥川龍之介の河童や蜘蛛の糸、杜子春等話して聞かせてくれました。その経験が私を本好きにしてくれたのだと思います。人生を生きる上で書物を読む事程大切な事は無いと思います。様々な分野の事を広く深く探求し書かれた本は一人で考えていただけでは思いつかない様な事を教えてくれます。脳が、まだ柔らかい内に多くの書物に触れる事は、それからの人ほど程大切な事でしよう。五人のジャンルの本を読む事で脳の中で思わぬ繋がりが生まれ、それ

ではない発想が出来る事もあるでしょう。
読書は自分の成長の源です。

今、コストパフォーマンス、タイムパフォーマンスと言って効率ばかり強調されていますが本当にこれから日本が目指すべき道は、それと反対の、じっくりと時間をかけ価値ある物を創る事に力を注ぐべきだと思います。これまで日本が成長し発展して来た道は、その事の追求だったはずです。

私は冬になると足の踵が干からびた餅のようになりカカカカに乾いて、ひび割れていたので保湿クリームやハンドクリームを塗っていたのですがあまり効果はありませんでした。

そこで嬉野温泉の湯は「日本三大美肌の湯」と広報しているので早速試してみました。効果抜群、看板に偽り無し数日でツルツルの肌になりました。最後になりましたが

今年の干支は「巳」旧皮を捨てて新たな挑戦の年になりたいと思います。